

三永まち協たより 3月号



三永まちづくり協議会 082-426-0741

三永まちづくり協議会 28年度にむけて

三永まちづくり協議会の活動に、ご支援・ご協力くださり、ありがとうございます。
協議会も28年度で4年目をむかえます。

28年度は「楽しいこと」を基本原則にし、従来の伝統を大切にしながら「新しいこと」に取り組み、地域を「美しくすること」で世代間交流を図っていきます。そして、この三つの視点を持った活動で、安心・安全で、さらに居心地の良い三永を目指していきます。

新規に「情報発信のシステム」「防災マップを作成、空き家対策」「子育て支援」などの課題にも取り組んでいきます。

こうした活動に対して区民皆様のご意見・要望などをお聞かせいただき、今後の活動に役立ててまいりますので、今後とも、ご支援・ご協力を宜しくお願い致します。

三永まちづくり協議会
会長 仲伏 英雄



活動報告 2月18日(木)おはぎ弁当のお届け

今年度3回目の一人暮らし高齢者見守り事業が実施されました。
今回は「おはぎ弁当」の宅配です。生活・福祉部会員と見守り協力員の方々の作られたお弁当を民生児童委員さんが配りました、
三永小学校の児童の作文も添えて配られたおはぎはいかがでしたでしょうか？



カモンケーブルテレビが
取材に来ました!!
「KAMONたいむ」も

活動報告 1月31日(日)「地域の力で地域を守る」

下三永の福成寺で西条南地区合同の消防団による防火訓練が行われました。

「地域の力で地域を守る」定期的に訓練を行っています。



備えあれば憂いなし

5年前の3月11日、東日本大地震の映像を見て、恐怖を感じました。

しかしながら、「人間とは忘れる生き物」記憶は風化していきます。当時は「災害時の備えをしておかなければ・・・」と思い非常食や飲料水を備蓄、しかしながら、幸いなことに出番なく気が付けば、賞味期限が過ぎ、入れ替えることなく押入れの片隅へ。

3.11をいつどこで起こるか分からない災害のこと、考える機会にしてみても・・・

災害の報道で感じるのは、災害時に支援物資がすぐに届かず、食糧や水の確保にあわてる人の姿。水道や電気などのライフラインが普及するまでにあわてることのないよう各家庭でも非常食は備蓄しておきたい。

日常生活の中で使う最低でも3日、巨大災害を想定したら1週間の非常食備蓄が必要に・・・

冷蔵庫の中をはじめ台所まわりに目を移せば、1週間分の備蓄となる可能性があるはず、普段からちょっと多めに食材を買い置きして、食材を普段の食事に使いながら、一定量を常に非常食にするローリングストック法を実践してみよう。非常食は未使用のまま賞味期限が過ぎてしまいがちだが、このローリングストック法であれば食材を無駄にすることなく非常時に備えることができる。

それと忘れずに「カセットコンロ」を。過去の被災者の多くは、災害後の避難生活の際に“温かい物”が食べたかったとの声。備蓄しているお気に入りのレトルト食品などをさらにおいしくいただくために、被災直後の一時的に電気やガスが止まり、熱源を失ってしまう状況で、カセットコンロはすぐれもの。普段鍋用に準備されているご家庭も多いはず、カセットボンベの買い置きを少し多めにして災害時に備えましょう。

三永まちづくり協議会では『三永の防災マップ』を作成しています。

地域の安全を地域の仲間で守りましょう。

